

社会福祉法人 旭川育成会 旭川市

【地域への公開講座実施（今年は栄養について学ぶ講座「ミルク教室」）】

①地域貢献の一環として、公開講座実施

【高校生への介護体験、認知症サポーター養成講座実施】

①若者の福祉、介護、認知症への理解とイメージアップを図るため実施。
平成26年から今の形で年1回続けている。

介助の方法には根拠があること、持っている力やその人らしさを大事にしたクリエイティブな仕事であることを伝えるよう工夫してお話している。

②生徒さんからの感想

「将来自分もここなら入りたいと思いました。」

「自分の祖母をサポートする時に教わったことをやってみたい。」

「自分の身内に認知症になりそうな人がいるので、対応をもう一度考え改めてみようと思う。」

【奥尻町いきいき福祉フェアへの協力】

①町内小中学生対象の高齢者・障がい者疑似体験コーナーのブースで啓発活動を年1回続けている。

②生徒さんからの感想

「困っている人がいたら声をかけてみようと思う。」

【中高生職場体験受入】

①中学生・高校生の職業体験活動として、受入する。

②中・高校生が、保育士の職種に対して理解を深められた。

【ふれあいサロン介護教室】

①市内町内会で行っているふれあいサロンに参加し、運動と計算やしりと
り等頭を使う認知課題を組み合わせで行うエクササイズである「コグニサ
イズ」を取り入れ地域の方々の健康保持に努めている。

②ふれあいサロンでの活動内容を広げたいという町内会からの要望があ
り協力している。

【福祉教育活動】

- ①●介護予防センター西野（札幌市より委託）で実施している“すこやか倶楽部”の中で、当施設（五天山園居宅介護支援事業所）のケアマネージャーが「介護保険制度の説明会」や「福祉用具の紹介（福祉用具の事業者に依頼）」等を開催。また、月1回、“すこやか倶楽部”に参加されている住民の方々の血圧測定の手伝い、及び茶話会にも積極的に参加。
- 民生児童委員連絡協議会の会合（月1回）に介護予防センター西野職員と参加し、介護保険制度についての質問を受け付け回答している。

②母体の特養や居宅介護事業所の役割周知を図る目的で取組みを開始した。

元々“すこやか倶楽部”の血圧測定の手伝いに出向いていたこともあり、「もっと顔のみえる関係になれたら！」と、本企画を立案し実施。

福祉用具の紹介では、実際に用具に触ってもらい、具体的な活用事例を提示、説明することで福祉用具の必要性等、深く理解してもらえた。また、今まで無関心だった人たちにも興味を持っていただくことができた。

社会福祉法人 北見市社会福祉協議会

北見市

【社協職員・ボランティア登録団体（個人）による出前講座・出前披露】

①福祉関係団体や施設・学校・町内会・サロン等の自主的な活動を支えるため「スマイル届け隊」として講師派遣

②関係団体・施設等からの派遣要請に対し、平成 25 年度から「スマイル届け隊」の講師リストを作成し、広く PR。サロン活動やボランティア活動のメニューやきっかけづくりとして効果を発揮している。

【介護普及事業】

①高齢者介護施設について、介護職員について、近年マスメディアでは悪いイメージばかりが先行していますが、高齢者介護に取り組む私たちがどのような仕事をしているか、どのような人たちが暮らしていて、働いているのかをもっと知ってもらいたい、施設に来て頂きたいという思いから、施設に来て頂ける学校を求めて学校訪問をおこなっていましたが、まずは自分たちが学校を訪問して、私たちのことをお伝えする機会を作れないかと考えたのがキッカケです。

②そういった呼びかけをする中で、普通科高校の家庭科の授業において「高齢者福祉」について学習する時間があるとのお話しを受けました。2時間必ず実施しなければならないが、家庭科担当の先生も何をどう伝えたらよいか困っているとのことでしたので、私たちにできる高齢者福祉についての授業を持ち込みで実施させて頂くことになりました。

○1 時限目（45～50分授業 1コマ）

パワーポイントを使用して、日本が迎えている高齢化社会とはどういうことか、どのような問題に直面しているのか、またそれは地域に暮らす私たちにどのような関係があるのかなどをまとめたものを説明。※30分

・サザエさん一家が30年歳を取ったら？～自身の家族を介護しなければならなくなった時、誰が介護をするか～

・65歳、75歳はみんな介護が必要な高齢者？～芸能人など身近で知る65歳、75歳の人から考える～などのディスカッション、参加型の座学を実施。

合わせて、介護施設で働く私たちの体験談。どのようなキッカケで介護施設で働くようになったか。また介護施設に働く人は介護職員だけでなく、様々な職種の人がいること、人の生活そのものが、介護施設にはあること等を5分×3名程度お話しをする。※10～15分

これは、「自分たち中学生・高校生の将来＝地域で働く人たち」と思い描けていない学生達と、気持ちを共有できる時間になります。経験したことのないことは実感できないと考える中で、自分たちも中学生・高校生であ

った頃の話しをすることで、自然と学生と私たちの気持ちがリンクします。将来について考えている学生、何かしら悩ましい事を抱えている学生とそれぞれの琴線に触れる部分があるようで、一気に学生との距離が縮まる時間であると実感しています。

○2 時限目

高齢者・障がい者の疑似体験をしてもらいます。ポイントは介護される側と介護する側の両方を体験してもらう事です。

・片麻痺体験：左右それぞれの手足の動きを固定する装具を装着してもらい、半身麻痺となった状態で歩行や階段の上り下りをしてもらいます。2人1組となり、もう1人は半身麻痺役の方の介助をしてもらいます。10分程度で交代

・車椅子体験：車イスを使用した移動介助を体験してもらいます。介助される側はアイマスク・耳栓を着用して、自身では移動できない状態になってもらいます。また介護する側は、平坦な道から段差の乗降までを実施してもらいます。どちらも初めての体験でとても恐怖を感じるようです。その中で相手がどう感じているかを考えながら行動（介助）する気持ちが芽生えます。10分程度で交代

各疑似体験において介護する側、される側になって取り組んでもらい終了します。疑似体験の最後には「相手の気持ちを考えながら行動することは、その人、自分の生きやすさに繋がること」ということを申し添えます。高齢者福祉＝非日常の生活ではなく、どの人の生活も日常にあり、すべてどこかで繋がっているというふうに考えて欲しいと思っていることをお伝えします。

このような形式で学校を訪問する事を5年前から始めました。昨年度においては、高校4校、計18クラス（およそ700名）中学校1校、計3クラス（70名）にて実施。今年度は、高校5校、中学校1校にて実施中であります。活動の成果としては、参加された学生の皆さんの声です。

「介護施設は暗いイメージしかなかったけど、イメージが変わった」「自分が障がいを持ってこの先暮らしていかなければならないと考えると、本当に大変だと思った。そういう人をみつけたら、自分に出来る事をしたいと思った」「学校には障がい者の人が過ごしにくい場所がたくさんある。段差や扉の開き方などを障がいのある方に向けた作りにして欲しい」「介護施設で働く人たちの想いを聞いてカッコイイなと思った。自分も尊敬出来る仕事に就きたいと思った」

毎回、たくさんの声を届けてくれます。